

八王子市民大学「いちよう塾」で学ぶ 知的好奇心旺盛な受講生に圧倒される

後期は、前期よりも大幅に授業

が減り、前期は週6でほぼ毎日通学していたが、後期からは週5になった。しかし、空いた1日をどう使おうか？恐らく私の場合、やるべきがなければ、1日中家にいて寝て過してしまふ。それでは、貴重な1日が勿体ない。そう思つて、『八王子学園都市大学（愛称・いちよう塾）』に通つてみることにした。

いちよう塾は、八王子市のスロウガンの「だれもがいつでも多様に学び豊かな文化を育むまち」を実現するため、八王子市と八王子地域の23大学、短期大学・専門学校、企業及び市民との協働により、市民に学ぶ機会の提供を目的として平成16年9月1日に開学した市民大学だ。

八王子市民だけでなく、18歳以上で学習意欲のある人なら誰でも学ぶことができる。私が受けている講義は、大学での専門とは全く関係ない「国際化した時代の経済と金融」と「ヨーロッパ統合の政治経済学」のふたつ。講義には、60歳以上と思われる方や主婦の方が受講されてい

る。大学生は、私だけである。

2つの講義で共通して言えるのは、どちらも受講生が積極的だということだ。普段大学で受けている講義では、講義の途中で、先生が説明しているところを止めてまで質問する人はあまりいない。しかし、いちよう塾での講義は違う。「先生、ちよつと待つて。それどういうこと？」と、先生の説明を中断させ、分からないことがあればすぐに質問をする。

そして、先生も嫌な顔ひとつしないで、丁寧に説明してく

れる。講義の終了時間5分前には先生が質問時間をとる。教室には、受講生の3分の2以上が残り、質問をしたり、話を聞く。

受講生の中には、事前に資料を作成してきて、それを先生に手渡し、質問する人もいる。更に、先生はまだ知らない最新の情報について質問をして、先生に「次回までの宿題にさせてください」と言

わせる受講生もいる。

講義は90分で行われるが、質問時間が講義終了後30分ほどあるので、実質120分の講義である。とにかく受講生の熱心さは凄まじい。とても講義中にかうか寝てなどいられない雰囲気がある。大学の講義では、試験を意識して講義を受けなければ

台宿で感じた俺達は家族だ!! 自らの成長とその余地を実感

白 門祭の期間を利用して、私の所属するダイビングサークルは八丈島に合宿に行った。

今回の合宿は3年生の現役ラストダイビング、2年生の仮

執行というところで、今までの合宿とはどこか雰囲気

気が違っていた。だからなのか、合宿最終日、いつもならワイワイ行はずの飲み会で、一人一人がサークルに対する思いを熱く語った。

私たちのサークルでは、安全に且つ楽しく潜ることを目標にしている。ダイビングは、いつも死と隣り合わせのスポーツだ。

ならないが、いちよう塾では、試験も無く、純粹に講義に集中できる。

そして、何より様々な年代の人と講義を受けることができるのが面白い。大学の講義だけでは物足りない知的好奇心が旺盛な方は、是非受講してみたいかがだろうか。(上)

陸ではなく、海の中。気を抜いたら事故が起こりかねない。そんなスポーツと一緒にやる仲間だからこそ自分の思いを相手に伝えられるのだと思う。今回の合宿で、ダイビングのスキルだけではなく、人としても自分の成長を感じ、また成長の余地も感じた。

サークルは一つの会社のようなもので、一人一人に役割が与えられている。だからこそ、自分のことをを精一杯こなせばいいと思う。一人一人の努力と、相手を思いやる気持ちがあれば、良い組織が生まれるのではないかと感じた。

私にとつて、このサークルは第二の家族のような存在。これから大切にしていきたいと思った。(梓)

